

# 診 療 情 報 提 供 書

IMSグループ イムスケアふじみの

フリガナ 氏名		(男・女)	生年月日	明・大・昭 年 月 日( 歳)			
身長	cm	体重	Kg	血圧	/	脈拍	/分
傷病名							
既往歴 経過							
生活自立度	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1 C2
認知症度	I	II	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV M
意思疎通	1:可 2:その場合は可能 3:時々通じる 4:不可						
皮膚疾患	褥瘡	無	有	部位 程度			
	疥癬	無	有				
処置内容	胃瘻:(交換日 )						
	バルーン: ストマ:(自己管理 可 否 ) インスリン:( 単位/日 自己注 可 否 ) その他(内容・対応):						
アレルギー	(薬... ) (食事等... )						
食事内容	主食(常・粥) 副食(食・刻・ミキサー) 治療食( ) 制限( )						
麻痺	1:無 2:有(部位 )			拘縮 1:無 2:有(部位 )			
ワクチン	肺炎球菌ワクチン 1:未 2:不明 3:済(時期: )						
処方内容							
<b>検査項目 * 下記については、データのコピーでも可</b>							
生化学検査 ( 年 月 日)				血液学検査( 年 月 日)		尿検査( 年 月 日)	
総蛋白	g/dl	CR	mg/dl	白血球	/ul	蛋白	
アルブミン	g/dl	UA	mg/dl	赤血球	/ul	糖	
A/G		Fe	μg/dl	血色素	g/dl	潜血	
T-Bill	mg/dl	Na	mEq/l	Ht		M R S A ( - + ) 部位:	
ALP	IU/l	K	mEq/l	血小板	×10 <sup>4</sup> /ul		
GOT	IU/l	Cl	mEq/l				免疫学検査
GPT	IU/l	T-Ch	mg/dl	CRP	mg/dl	RPR	
r-GTP	IU/l	LDL-Ch	mg/dl	血糖(空腹時)	mg/dl	抗TP抗体	
LDH	IU/l	HDL-Ch	mg/dl	糖尿病の場合		HBs抗原	
尿素窒素	mg/dl	中性脂肪	mg/dl	HbA1c		HCV抗体	
上記の通り相違ないことを証明する。				令和 年 月 日			
				所在地 医療機関名 電話番号 医師氏名			
				印			

検査項目	検査の説明	
白血球数 (WBC)	白血球は血液中の成分で異物から体を守る働きがあり、その増減で血液の病気や細菌の感染などを判断します。	
赤血球数 (RBC)	血液の大部分を占めていて、酸素を運搬する役割を持つ。貧血や赤血球増加症があるかなどを調べます。	
血色素量 (Hb)	血液中の色素（ヘモグロビン）の量を示しています。貧血や赤血球増加症の検査に用います。	
ヘマトクリット値 (Ht)	血液中にある赤血球体積の割合を示します。貧血などの目安になります。	
血小板数 (PLT)	血液を固める役割を持つ血小板の数です。減少すると出血しやすくなります。	
平均赤血球容積	赤血球の大きさを表します。この値が大きければ大型の赤血球であることを示します。主に貧血の原因や種類などを調べる検査です。	
(MCV)		
平均赤血球血色素量	赤血球1つに対する赤い色素（ヘモグロビン）の量です。この値の大小は酸素を運ぶ能力の高低を示します。貧血の時などに低い値を示します。	
(MCH)		
平均赤血球血色素濃度	一定の血液に含まれる赤血球の容量に対する赤い色素（ヘモグロビン）の量です。この値の大小は体の中に酸素を運ぶ能力が高いか低いかを示します。	
(MCHC)		
白血球像	Neutro (好中球)	体の中に入ってきた細菌を食べる働きをします。
(5分画)	Eosino (好酸球)	アレルギー反応などで値が上昇する場合があります。

LDLコレステロール	コレステロールをカラダの組織へ運ぶ役割をします。動脈壁に沈着するなど、動脈硬化の原因となるため、「悪玉コレステロール」と呼ばれます。高LDLコレステロール血症 $\geq$ 140 mg/dL
ナトリウム (Na)	体の水分のバランスを調節する働きがあり、常に一定の値が保たれています。嘔吐や下痢で値が低くなることがあります。
カリウム (K)	神経の刺激伝達や筋肉の働きに関係しています。
クロール (Cl)	体の水分の変化で変動します。ナトリウムなどのイオンと一緒に水分、浸透圧の調節を行います。
カルシウム (Ca)	体内の電解質で骨に多く含まれ、神経や筋肉の興奮や止血に重要な役割を持っています。
無機リン (P)	カルシウムと同様に骨を作っている重要な成分です。
総ビリルビン (T-BIL)	肝臓の働きの目安となり、肝臓の働きが悪くなると値が高くなります。
直接ビリルビン (D-BIL)	肝臓の働きの目安となり、肝臓に障害が起こった場合などに高くなります。
間接ビリルビン (I-BIL)	赤血球が壊れている場合に高値を示します。肝臓の障害でも上昇します。
CRP定量	炎症が起きたときや組織が壊れたときに、血液中に増加する蛋白質の一種です。炎症反応を示す指標となります。
梅毒定性 (TPHA法)	梅毒にかかっているかどうかを調べる検査です。
HBs抗原 (凝集法)	肝炎を起こすウイルスのうち、B型に感染しているかを調べる検査です。
HCV抗体2 (EIB)	肝炎を起こすウイルスのうち、C型に感染しているかを調べる検査です。

	Baso (好塩基球)	血液中の悪いものを減らす働きがあります。
	Lymphocyte (リンパ球)	免疫の働きに重要なかわりを持ちます。
	mono (単球)	結核や細菌に感染すると増加することがあります。
総蛋白 (TP)	血液に含まれるたんぱく質の量です。栄養状態を見る一つの目安となります。	
アルブミン	肝臓で作られ血液中の蛋白を構成しています。全身の栄養状態や肝臓の障害を見るための検査です。	
A/G	血清中の蛋白を構成するアルブミンとグロブリンの比率です。栄養状態や炎症の状況を反映します。	
AST (GOT)	肝臓の働きの指標となる酵素です。肝臓の細胞に障害が起こるとこの値が高くなります。また、飲酒後や激しい運動の後も数値が高くなる場合があります。	
ALT (GPT)	肝臓の働きの指標となる酵素です。肝臓の細胞に障害が起こるとこの値が高くなります。	
乳酸脱水素酵素	体の中で糖分がエネルギーに変わるときに働く酵素で、あらゆる組織に広く分布しています。肝臓・心臓・血液の病気で高値を示しますが、組織が壊れたときに血液に出てくるため、日常的な運動や採血時の状況で血液中の赤血球が壊れたときでも高値を示します。	
(LDH)		
アルカリフォスファターゼ	主に肝臓・胆管・胆嚢などに異常がないかを見る検査です。脂肪食を摂ることで高くなります。骨由来・小腸由来のものなど様々な種類があることから、由来を特定することでさらに詳しく調べることができます。	
(ALP)		

尿検査	pH	尿のpHを表します
	糖	尿中の糖分です
	蛋白	尿中の蛋白質です
	潜血	尿中の血液です
	ケトン体	長時間の絶食などで、身体に必要なエネルギーのもととなる糖分が足りなくなった場合に、脂分から糖分を作るときにできる物質です(ケトン体)
	ビリルビン	血液中のヘモグロビンから作られており、肝臓の働きの目安となる物質です
	ウロビリノーゲン	胆汁の中の物質が分解されて出てくる物質です
	Bac(Nit)	尿中の細菌を示します
比重	尿の濃さを示します。腎臓の働きを見る項目のひとつです。	

γ-グルタミルトランスぺプチダーゼ (γ-GTP)	肝臓や胆道に障害があると高い値を示す酵素で、飲酒によっても高くなる場合があります。
コリンエステラーゼ (ch-E)	肝臓での蛋白質を作る能力や栄養状態を示します。
クレアチニン (CRE)	腎臓の働きを示します。
尿酸 (UA)	蛋白質の一種であるプリン体（遺伝子のもととなる成分）という物質が分解された後の残りかすのようなもので、血液中の尿酸のバランスがとれているかをみます。
尿素窒素 (UN)	体の中で使われた蛋白質の老廃物でこの項目を測ることで腎臓の働きをみます。
血糖値 (BS)	血液中の糖分です。
中性脂肪 (TG)	血液中の脂質（脂肪）の量を示します。
総コレステロール (T-CHO)	体の中にある脂質の一つで、栄養状態を見るひとつの目安でもあり、脂質代謝の異常や動脈硬化の危険性の余地に役立ちます。
	高コレステロール血症 $\geq 220$ mg/dL
HDLコレステロール	組織からコレステロールを回収し、肝臓へ運ぶ役割をします。動脈壁などからコレステロールをとり出すため、「善玉コレステロール」と呼ばれます。
	低HDLコレステロール血症 $< 40$ mg/dL